今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇8月12日～

先週のマーケットは月曜に暴落が起こり、特に株式市場は日経平均が12%超も暴落してサーキットブレーカーが発動するなど乱高下が激しく、週末になってなんとか落ち着きを取り戻した状況です。
ブラック・マンデーやリーマン・ショックを超える激しい株価の値動きに投資家は呆然状態です。
ただし、為替相場はリーマン・ショック程の衝撃ではありません。
リーマン・ショックの時は瞬時にドル／円が5円暴落とかの動きが続きましたが円高の動きは先週月曜の1日で5円程度の下げなので、見たことのないような歴史的な動きにはなっていません。
ただし、為替相場も7月初めから8月初めまでの1ヶ月でドル／円が20円も下落しているので、この1ヶ月の動きは株価ほどではありませんが久しぶりの大きな動きです。
問題はテクニカルで見てもファンダメンタルで見ても今までとは状況が変わってきていることです。
一時的な暴落で、またすぐに円安、株高トレンドが再開するのかというと雲行きが怪しくなってきました。
日本株がここまで暴落した背景は、日本が利上げを実施し、米国が利下げに動き出しそうなこと、米国の株価上昇のけん引役だったハイテク株の下げ（1日にインテルが配当金廃止やリストラ発表などでナスダックが急落）の2つが大きいと言われています。
日米の金融政策を見ると完全に円高ドル安要因となります。
また、AIバブルやテック系企業の上昇は、円安（円売り）とセットで取引されていたこともあり、巻き返しが起これば、株の投げ売りと円の買い戻しが同時に起こり、円高・株安の動きが加速しました。
テクニカルで見るとドル／円は、2022年、2023年高値の151円を明確に割り込んだことから、今後152円を超えていく円安は難しい状況になってきました。
さらに、ドル／円が140円を割り込んでいくと130円あたりまで円高が進む可能性が高まります。
ドル／円も日本株もこの1ヶ月の暴落で、今年の上昇分は全て消滅してしまった状況です。
そして、先週の急落から急激に戻したことで、先週末（2日）あたりのレートにドル／円も日経平均も戻っています。追い証をなんとか逃れた人は先週末まで時間が戻ったような感じでしょう。
これで何とか株も為替も5日の大暴落はなかったように表面的には見えますが。
問題は、ここから米国の金融政策や株価がどうなっていくかです。
米国株の崩壊、米国の利下げによるドル安の動きが本格的になれば大きな暴落が再度起こる可能性が高まります。
今週は、米国では消費者物価指数などが発表されるので、お盆ですがリスク管理はしっかりしていきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved

今週の相場はどうなる？

今週の相場はどうなる？

＜ドル／円＞

ドル／円は8月に入ってから溶けるような動きとなり、先週月曜には141円台まで下げました。
週末にかけて戻してはきましたが147円台で上値が重くなっています。
148円の抵抗を超えれば150円までは戻す可能性があります。
下値は145円台半ばにサポートがあり、ここを割り込むと144円のサポートが意識されます。
144円を割り込むと再び円高リスクが高まってくるため注意がいります。
今週は144－148円程度のレンジを意識しながらトレードしたいです。

＜気になるクロス円＞

クロス円もドル／円や日本株の下落と同じように先週月曜に大底をつけたペアが多く、不安定な動きとなっています。
オセアニア通貨（豪ドル、NZドル）は月足で見ても上昇が崩れてきています。
先週高値を超えることができなければ反落リスクが高まるため動きをよく見ていきたいです。
株が下がるとクロス円は下げやすいので、日経平均やNYダウなどの動きも確認しておきたいです。

＊クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

＜今週のファンダメンタル？＞

日本では4－6月期GDP（速報値）などがあります。
米国では7月月次財政収支、7月卸売物価指数、7月消費者物価指数、7月小売売上高、8月ニューヨーク連銀製造業景気指数、8月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、前週分新規失業保険申請件数、7月鉱工業生産、6月対米証券投資、7月住宅着工件数、8月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。
欧州ではユーロ圏とドイツで8月ZEW景況感調査、ユーロ圏で4－6月期GDP（改定値）、6月鉱工業生産などがあります。
ほかには、ニュージーランドで政策金利、英国で7月消費者物価指数、4－6月期GDP（速報値）、6月GDPの発表などがあります

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved